

埜 町

舗装個別施設計画

平成 31 年 3 月

目 次

1. 舗装の現状と課題

- 1-1 管理道路の現状
- 1-2 舗装修繕予算の現状
- 1-3 舗装の現状

2. 舗装の維持管理の基本的な考え

- 2-1 舗装管理の基本方針
- 2-2 管理道路の分類（グループ分け）
- 2-3 管理基準
- 2-4 点検方法・点検頻度
- 2-5 使用目標年数（分類 B の道路）

3. 計画期間

- 3-1 計画期間

4. 対策の優先順位（補修計画の方針）

5. 舗装の状態、対策内容、実施時期

- 5-1 診断結果
- 5-2 対策内容と実施時期

1. 舗装の現状と課題

1-1 管理道路の現状

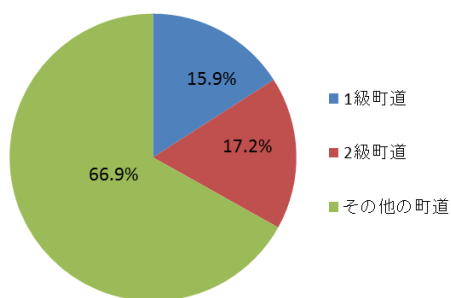
(1) 管理延長と舗装延長

平成30年11月現在

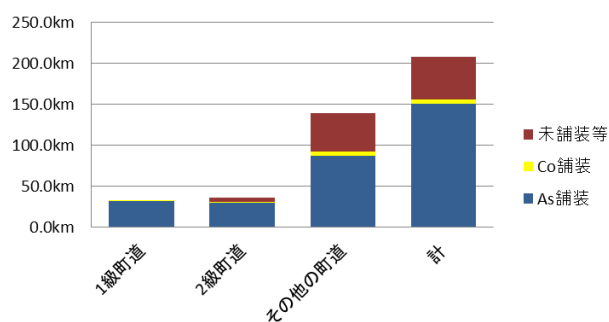
道路区分	管理延長	重用延長	舗装延長			舗装率
			As舗装	Co舗装	未舗装等	
1級町道	33.7km	0.9km	32.4km	0.4km	0.0km	99.8%
2級町道	36.4km	0.0km	30.4km	0.3km	5.8km	84.4%
その他の町道	141.6km	1.5km	87.7km	4.4km	46.9km	65.7%
計	211.7km	2.4km	150.5km	5.1km	52.7km	74.3%

※As舗装に簡易舗装は含まれる

町道路線延長比率



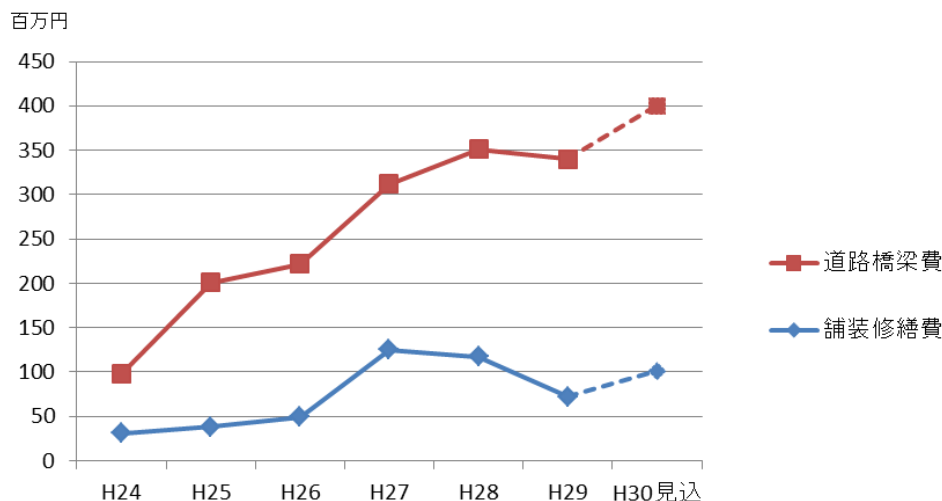
舗装延長比較



1-2 舗装修繕予算の現状

道路予算のうち舗装修繕予算は、平成26年度の社会資本総合交付金事業の導入による一時的な増加があり、平成29年度にかけては減少傾向にありましたが、平成30年度から公共施設等適正管理推進事業債を活用し増加となる見込みです

舗装修繕予算・決算



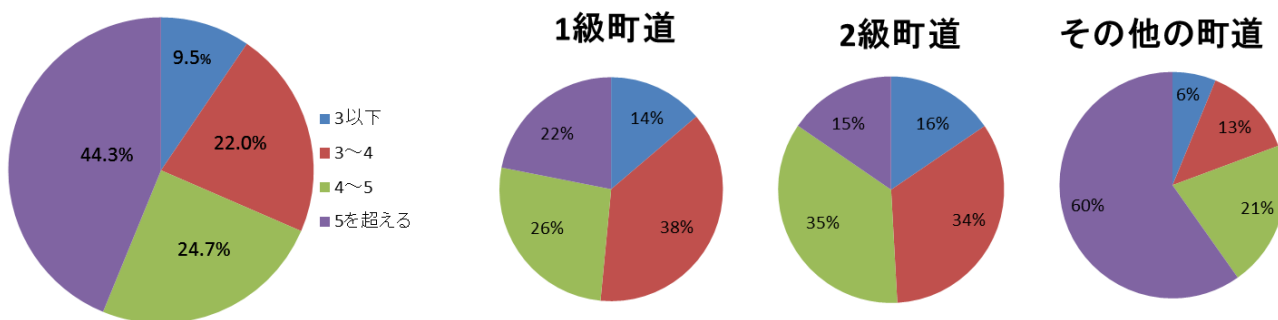
1-3 舗装の現状

平成 26 年度及び平成 27 年度において、管理する全路線 L=164.9 km（※1）の路面性状調査（道路ストック総点検）を実施し、MCI（※2）を用いて調査を評価した結果、損傷が著しく修繕が必要と判断される町道が約 52.0 km（全体の 31.5%）存在しています。

※1 片側1車線の路線は、両車線路面性状調査を実施しています。

※2 MCI：道路維持管理指数（ひび割れ率、わだち掘れ量、平坦性を用いて算出）
値は 0.0～10.0 までの範囲数あり、数値が低いほど破損が進行している状態。

MCIにおける評価(町道全体)



2. 舗装の維持管理の基本的な考え

2-1 舗装管理の基本方針

町道舗装個別施設計画の策定にあたっては、診断結果を踏まえた適切な措置を行うことで、道路舗装の長寿命化や舗装の維持修繕費のライフサイクルコスト縮減を目指します。

2-2 管理道路の分類（グループ分け）

大型車交通量、路線の重要度等を踏まえ分類

分類	対象道路
分類Cの道路	1級町道、2級町道、その他の町道の一部（幅員等が1、2級と同程度）
分類Dの道路	上記以外のその他の町道

2-3 管理基準

MC I (4.0以下)を舗装補修対象とする。

2-4 点検方法・点検頻度

分類	点検方法	点検頻度
分類Cの道路	目視点検	5年に1度
分類Dの道路	巡視の機会を通じた路面状況把握	

2-5 使用目標年数(分類Bの道路)

該当なし

3. 計画期間

3-1 計画期間

当該個別施設計画の計画期間は、5年とする。

4. 対策の優先順位(補修計画の方針)

舗装損傷状況、路線の重要性、交通量等を考慮し補修の優先順位を決定する。

5. 舗装の状態、対策内容、実施時期

5-1 診断結果

平成26年度及び平成27年度に路面性状測定車による点検を行った164.9kmの結果は以下のとおりです。

	区分Ⅰ	区分Ⅱ	区分Ⅲ	区分Ⅲ	
				Ⅲ-1	Ⅲ-2
分類C・Dの道路	72.2 km	40.7 km	52.0 km		

区分Ⅰ (健全=損傷レベル小)

区分Ⅱ (表層機能保持段階=損傷レベル中)

区分Ⅲ (補修段階=損傷レベル大)

5-2 対策内容と実施時期

別添対策路線一覧表及び対策路線図参照